J-1　松島町手樽地区　　2012 年 1 月 13 日（金）

報告者名	岡田　浩樹	被調査者生年	生年未確認
調査者名	岡田　浩樹	被調査者属性	① 手樽漁協前組合長、② 不明、③ 現組合長、④ 土井栄作財務、⑤ 不明、⑥ 漁業管理者、手樽漁協全組合員
補助調査者	小山　　悠		

被災した際の状況

この浜は人間には被害がなかったが、牡蠣の作業場と牡蠣棚の被害は大きい。地震の時には、ここで作業をしていたが、津波が来るかもしれないということで、浜から離れた。津波は作業場の壁（浜に隣接して建てられている）約 1 m まで来て、戸や窓が壊れ、いろいろなものを持って行かれたが、人の被害は少なかった。むしろ、地震と津波の時に、他所に出ていた人の方が危なかったと思う。津波そのものよりも、浜が下がってしまい、堤防も低くなったため、その方が問題である。

また海底のがれき撤去をしないと、危ない。浅い海だけに深刻な問題である。ようやくめぼしいところは撤去したが、まだまだわからないところにあり、また作業場の修理、牡蠣棚をつくる道具などをどうするか、漁協として皆がやる部分もあれば、1 人 1 人の責任で負担しなくてはならないこともあり、今後もここにいる全員が牡蠣養殖を続けていけるかは、わからない。特に年寄りはどうだろうか。

牡蠣養殖

この地区は、現在 38 戸で、全部が漁業に関わっているわけではない。その中で震災前は 13 戸が牡蠣養殖を行っていた。震災後、3 戸が牡蠣養殖を続けることを断念したので、今は 10 名が漁業組合員である。今後も全員が続けていけるか不安なところがある。

この付近の海は浅く、浜から 2.5 km のところに牡蠣棚があった。浅い海だと言うことで、以前は海苔養殖、それに浅蜊が主で、魚については特に売るほどのものではない。今は浅蜊は主婦の小遣い稼ぎになっている。50 年前から海苔養殖に転じた。

牡蠣の生産量は松島支所で全部管理しているので、これをどう配分するか、漁業管理者が一番「偉く」大変な仕事である。牡蠣は場所によって、成長や質が違い、潮の流れでかたくなったり、身が締まったり、全然違う。そこで 3 年ごとにくじ引きで漁場を割り当てる。特にこの付近は、浅い海でおおよそ 4-5 m くらいを中心に牡蠣棚を作っていたので、津波それ自体は東松島などに比べると小さかったけれども、海の上の方が流されるので、ひどく被害を受けた。この数年「ユウレイホヤ」の被害も少なく、順調だったので、打撃は大きい。

漁業組合と相互扶助

漁業組合の総会は３月の第３日曜にする。場所は地区の公民館である。

地区の 37 戸は皆すべてが漁業に関わっているというのではなく、松島に働きに出たり、農業をやっている者もいる（専業はいないけれども）。牡蠣養殖は基本的にそれぞれが独立しているので、作業も妻とするが、忙しいときは互いに融通してやっている。あるいは、親戚や親しい知り合いが手伝うと言うこともあるが、見ず知らずの者を手間賃を出して雇うことはしない。やりづらい。組合員が少なくなっても、他の地区の人に手伝ってもらったり、手間賃を出し来てもらうというのは難しいのではないか。他の組合と一緒にというのもどうか。漁業権についてはいろいろ難しいところがある。津波のせいで、海底の形が変わってしまい、潮の流れも以前と違うので、どの漁場がよいのか、一から考え直さねばならず、漁業管理者はものすごく苦労するだろう。当面手探りである。

部落と祭礼

37 戸の、この部落は３班に分かれている。１月の第４日曜日に新年会をする。その時は皆が公民館に集まり、宴会をする。地区全体の祭りは、熊野神社が春、八坂神社が７月である。

写真１　牡蠣作業場と組合員の皆さん

写真２　屋号によって分担を決める。ただし、厳密には名前やあだ名など屋号と言えないものも混在している。